



ご挨拶

日頃より、身延山大学国際日蓮学研究所仏像制作修復室（以下、工房）の活動に格別のご支援を賜り、誠にありがとうございます。

さて、長年にわたり工房の代表を務めてまいりました柳本伊左雄教授が名誉教授に就任し、これに伴い、2025年4月1日付をもちまして代表者が交代いたしましたことをご報告申し上げます。

在任中、工房の発展に多大なるご尽力を賜りました柳本伊左雄教授に対し、心より深く感謝申し上げます。

今後は、身延山大学特任講師として就任いたしました鈴木義孝を新代表とし、組織一丸となって諸活動に取り組んでまいります。

2025年は、令和6年能登半島地震により損傷した仏像の修復事業を新たに立ち上げ、石川県を複数回訪問し、調査・修復ならびにボランティア活動を実施いたしました。今なお残る震災の爪痕を肌で感じながら、復興に向けて私たちにできる支援を、今後も継続して行つてまいります。

また、長年取り組んでおりますラオス世界遺産仏像修復事業は、本年度第27回を迎えました。



3



4



2



6



5



- 1 高林山常薫寺二天門復興事業～経過報告～……………p10
- 2 ラオス世界遺産仏像修復事業について……………p04
- 3 身延山久遠寺仏殿仏像群修復事業について……………p12
- 4 作品展「ばけもの小路猫又ごころ」開催報告……………p13
- 5 能登半島地震……………p08
- 6 卒業生の近況報告……………p14

身延山大学 特任講師 鈴木 義孝



今後とも一層のご理解とご支援を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

工房の活動は、ひとえに皆様からの温かいご支援の賜物であり、深く感謝申し上げます。

みについてご紹介しております。

寺仏殿納牌堂仏像群修復事業、高林山常薫寺二天門復興事業、作品展の開催など、多岐にわたる活動を行っております。本号では、これら最近の活動の様子や、取り組みについてご紹介しております。

2025年11月には、愛子内親王殿下が日本とラオスの外交関係樹立70周年を記念し、初の外国公式訪問としてラオスを訪問され、日本国内においても同国への関心が一層高まっております。70年にわたる両国の交流の中で、身延山大学がその架け橋の一端を担うことができたことを、ささやかながら誇りに思っております。今後もしらなる交流を重ねながら、修復事業をはじめとする諸活動に邁進してまいります。

このほかにも、日蓮宗総本山身延山久遠寺仏殿納牌堂仏像群修復事業、高林山常薫寺二天門復興事業、作品展の開催など、多岐にわたる活動を行っております。本号では、これら最近の活動の様子や、取り組みについてご紹介しております。

ラオス世界遺産 仏像修復事業について

ラオスの心を支える活動でありたい

私たちは、普段ラオスという国について、身近に感じる機会は決して多くはないかもしれませんが。

2025年は、日本・ラオス外交関係樹立70周年にあたり、愛子内親王殿下が公式訪問されるなど、ラオス国の風景や文化が報道される機会もありました。

ラオスでは、国民の大多数が上座部仏教を信仰すると同時に、アニミズム（精霊信仰）も大切にされており、自然や祖先を敬うという点で、私たち日本人にも通じる感性を有しています。

本事業は、2000年より、ラオス政府情報文化観光省遺産局との協定のもと、ラオス北部の世界遺産の町・ルアンパバーン地域において、仏像の修復および調査活動を継続してまいりました。

この25年間のあいだに、ラオスは急速な経済発展を遂げ、町並みや社会の様相も大きく変化しました。そうした変化を、私たちは現地に足を運ぶなかで、実感をもって見つけ続けてきました。経済の発展は、貧困の軽減といった正の効果をもたらした一方で、地域間や国民間の経済格差を拡大させ、さまざまな社会問題も引き起こしています。

首都ヴィエンチャンやルアンパバーンといった都市部では、近年、仏像の盗難事件が多発しています。多くは、仏像を海外に売却し、現金を得ようとする動機に起因するものです。



その背景には、貧困や薬物汚染などの根深い問題が存在し、鍵を破って寺院に侵入し、僧侶を閉じ込めたうえで仏像を持ち去るといった、かつてのラオスでは見られなかった深刻な事件も発生しています。

こうしたラオスで起こっている事象は、決して他国の出来事ではなく、私たち日本においても近い将来起こり得る問題であるという、重い問いを投げかけているように思えてなりません。

2



1 ワットビスマナラート寺院へ修復完了仏像を返却
 2 毎朝のミーティング
 3 昼食風景
 4 第27回 事業参加メンバー



3

ラオス全土の仏像保全活動へ

私たちは、2000年の事業発足以来、ルアンパバーン世界遺産地域に限定した活動を実施してきました。

しかし、仏像を取り巻く環境の変化に対応する必要性が高まるなか、遺産局より要請を受け、2024年2月に、情報文化観光省遺産局、ラオス国立工芸大学ヴェンチャン校、身延山大学の三者による新たな協定を締結しました。

2025年は、ルアンパバーンから始まった本事業が25年目を迎え、ラオス全土の仏像保全活動へと新たな一歩を踏み出す、記念すべき節目の年となりました。



2025年寺院調査 Vientiane

ヴィエンチャンでの 仏像台帳作成作業

ラオス国の文化財保護について、その監督官庁である遺産局には、どの寺院にどのような仏像が安置されているかを示す体系的なリストが存在していません。

ラオス全土には17000を超える寺院が存在しており、私たちはまずヴィエンチャン市内の寺院から調査を開始しました。

今回調査を開始したワット・シーサケート寺院は、1819年に建立され、その後のタイ族との戦争によりヴィエンチャンが灰燼に帰した際にも堂宇が唯一残され、18世紀当時の面影を今に伝えています。

調査は、2025年2月25日から3月4日の日程で実施され、調査チームは、身延山大学の教職員・学生8名、ラオス政府遺産局および遺産保全事務所の職員7名の、計15名からなる日ラオ合同チームです。

調査では、ナンバリング、計測、写真撮影、三次元データの取得の各作業を同時並行で進めました。各作業現場では通訳の数が十分とは言えず、英語やジエスチャー、携帯電話の翻訳アプリなどを用いて意思疎通を図りながら作業を進める学生の姿は頼もしい限りです。

27回ラオス仏像修復例 Luang Phabang

本年度事業期間で修復した5体の修復例

ルアンパバーンでの修復活動

新協定の締結により、私たちの活動はヴィエンチャンをはじめ、他の地域へと広がることになりましたが、今後もルアンパバーン世界遺産における修復活動を継続していく必要があります。

ラオスにおいて、仏像修復を専門的に行う事業は本事業以外に存在していません。本事業の修復に携わってきたヴィエンチャン国立工芸大学の講師陣は、現在ラオス国内において、最も豊富な経験と高い技術を有する専門家集団へと成長しています。

今回の事業では、ラオス人チームが修復作業を主に担当し、ヴィエンチャンでの調査を日本人が中心となって進めるといふ、新たな体制での取り組みを試みました。

今回のルアンパバーンでの修復事業は、2月18日から3月9日までの20日間にわたり実施しました。

ラオス人技術者10名（調査担当を含む）と、身延山大学側8名（調査および修復サポート）により作業を進め、地域内寺院よりお預かりした木彫仏六体の修復を完了することが出来ました（うち一体は次回事業へ継続）。

Wat Visounnarath No.8



修復前



修復後



2



1 移送風景
2 修復風景



- 1 ワット・シーサケート本堂
- 2 3Dデータ計測
- 3 調査風景

今回の調査では、ワット・シーサケート寺院に安置される仏像180体の調査を実施し、そのうち84体について三次元データ採取を完了しました。

本調査は、ラオス国における仏像保全活動の第一歩を着実に踏み出したことを実感できる、非常に意義深いものとなりました。

Wat Visounnarath No.84



修復前



修復後

Wat Visounnarath No.78



修復前



修復後

Wat Visounnarath No.32



修復前



修復後

Wat Visounnarath No.19



修復前



修復後

能登半島地震

身延山大学 特任講師 鈴木義孝

輪島市内の被災寺院



2024年1月1日に発生した能登半島地震は、遠方に暮らす私たちにとっても、記憶に新しい出来事です。

私たちは日々、当たり前のように暖を取り、食事をし、比較的何不自由のない生活を送っています。

しかし現在も、被災地では仮設住宅での不自由な生活を余儀なくされている方々が数多く暮らしていることを、私たちは決して忘れてはなりません。

身延山大学では、能登半島地震の復興支援事業を立ち上げました。主に被災地で傷んだ仏像の修理を受け、日蓮宗宗務院の助成を受けて事業を進めています。

第1回目の能登訪問は、発災から約1年が経過した2024年12月24日から3日間の日程で行われました。この訪問では、30体の仏像・仏具をお預かりし、あわせて現地において六体の仏像の応急処置を行いました。

お預かりした仏像は、順次身延の地で修復を行い、被災地へお返しする計画です。





被災寺院本堂内部



仏様はバラバラでも残っていてありがたい



ご住職が瓦礫の中から救い上げた祖師像



ヘルメット着用で本堂に入る

また拜むことができます。
本当に嬉しい。(河崎住職)



修復前の鬼子母神像

2025年には、本学の復興支援事業に加え、甲府永照寺ボランティアグループ「マイトレイヤ」による炊き出しボランティアにも学生とともに参加し、計3回、能登を訪れる機会を得ました。訪問するたびに、復興が遅々として進まない現場を目の当たりにし、また仮設住宅に暮らす方々と触れ合うなかで、言葉が出ないほど悲痛な感情がこみ上げてきます。

能登に暮らす方々が1日も早く元の生活に戻り、再び寺院に参拝できるよう、私たちは祈りの場の復興に微力ながらお手伝いをしていきたいと考えています。

高林山常薫寺二天門復興事業

経過報告

制作集団彫玄(彫玄堂)代表

依田 司

昨今このような大きさでの極彩色の天部像の新規制作はとてもめずらしく、私自身もこのような仕事に携われる機会はおそらく今後無いであろうという気持ちで取り組んでいます。出来るだけ大勢の方にこの仕事の事を知っていただきたいという気持ちを込めまして、毎年発行される『のみおと』に二天像の作業の振り返りと、今後の作業の流れをのべさせていただきます。

2023年の春から始まった当事業は2025年12月時点で以下①〜③が完了し、④の荒彫り作業の終盤に差し掛かっています。

- ①粘土原型制作
- ②3Dデータ処理・型紙制作
- ③木取り・寄木加工
- ④荒彫り

【粘土原型制作】原型再作にあたりまして住職様のご希望は「像の形はおまかせしますが、天部に踏みつけられている邪鬼が仰向けでお腹を踏みつけられている姿にするのはやめてください」というものでした。足下で降参している邪鬼にさらにお腹まで晒させて踏みつける姿はあまりにも忍びないというお気持ちからです。粘土原型の大きさは約60cm、制作時はかきりきり作ると目が慣れてしまい歪な形が分からなくなってしまうため、途中途中で間をあけて約1年の時間をかけて制作いたしました。天部の姿形は他の仏像と比べると像体の動きがとて複雑で身体のあらゆる関節が捻じれた動きをして





いるために360度の角度からみても矛盾のない形にまとめるのが難しいのですが、そのかわりに完成した姿はどの角度から見てもダイナミックな動きが見て取れ、非常に迫力があります。また天部の仏像独特のデフォルムとして腰のくびれや臀部のふくらみなどがあり、後姿が特別美しいのが特徴です。完成した時にはぜひ後姿もご覧になってみてください。

【3Dデータ処理・型紙制作】実際の大きさは総高が3m、像の大きさが約2m30cmのものになります。木材を製材するにあたり60cmの原型を原寸に引き伸ばす作業をしなければなりません。様々な方法がありますが当工房では原型を3Dスキャナーでパソコンに取り込み、データ上で像を拡大し原寸にて紙に出力するという方法をおこなっています。

【木取り・寄木加工】仏像を作るときは一本の木材から彫り出すのではなく、複数の木材をはぎ合わせて一つの像の形を作ることが多く、これを寄木造りといいます。これは木材の確保と木材の割れを予防する目的のためで、はぎ合わせにする事で内部を空洞にする事が容易になり、空洞にすることで像体を軽量化し、木材の割れを予防する意味があります。当二天像は厚さ8cmの木材を貼り合わせて造られています。

【荒彫り】寄木加工が終わった状態ではただ角材が積み重なっただけにしか見えません。ここからまず電動工具を使い角材の角を落としていき、その後像の鎧などの装飾部分を彫らないよう注意しながら原型を参考に彫り進めていきます。叩き鑿をつかい概ねの形まで彫り進めたら次の小作りの工程に移ります。

ここまではいわば設計と基礎工事にあたる段階になり、⑤小作り、⑥仕上げ彫り、⑦彩色下地、⑧箔処理、と続いていきます。徐々に形が現れていく様子は大きな像だけに中々壮観なものです。

制作期間内はご連絡いただければ当工房にて見学することが可能です。令和8年半ば頃にはもっと細かい部分まで彫刻が進んでいると思いますので興味のある方はお気軽に御連絡いただき、足をお運び頂ければ幸いです。



身延山久遠寺仏殿仏像群 修復事業について

身延山大学 特任講師 鈴木 義孝

日本の仏像造像の歴史は、飛鳥時代にその起源を有します。奈良時代の律令体制下において、寺院造営は「造東大寺司」の管轄とされ、その中の「造仏所」で仏像を造る者は仏工と呼ばれました。平安時代になると、律令体制の崩壊とともに貴族が力を持つようになり、仏工は貴族の氏寺や大寺院に属するようになります。この、いわゆる「お抱え仏師」という考え方は、江戸時代には幕府や大名によって継承されましたが、明治時代になり廃仏毀釈を経て、完全に衰退してしまいました。

日本において寺院は、古くから伝統技術や文化を伝える重要な担い手であり続けてきました。私たちの工房は、日蓮宗総本山身延山久遠寺の境内地（大学の一部）に所在し、伝統と文化を次代へ継承する役割を担っています。

令和13年に営まれる日蓮聖人第七五〇遠忌報恩事業の一環として、私たち仏像制作修復室は、仏殿納牌堂仏像群修復という荣誉ある役目を任せていただけることになりました。これから4年を超える事業になりますので次号から作業の様子などを順次お伝えしてまいります。





作品展「ばけもの小路 猫又ごころ」開催報告

身延山大学 特任講師 若草瓦会館館長 永利郁乃



山梨県笛吹市にあるギャラリー「猫 Garage」にて「ばけもの小路猫又ごころ」題して作品展を開催し、2025年9月6日〜9月23日の会期をもちまして、無事終了いたしました。たくさんの皆様にご来場いただき盛況のうちに終わることができました。ご来場いただいた皆様には、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。思っていた以上にたくさんの方々に足を運んでいただき、なかには遠方から作品を観にお越しくださった方もおり、その温かさや興味を持っていただいたことに胸がいっぱいになりました。

「猫」をコンセプトとしたギャラリーの空間に寄り添うように、瓦作品や絵画、截金を用いた工芸など全16点を、猫と妖怪をテーマの軸に据えて制作いたしました。作品の前で足を止め、じっと眺めたり、微笑んだり、時に感想を伝えてくださる姿に、作品が誰かの中で息を始める瞬間を感じました。

ご来場くださった皆さま、応援してくださった皆さまへ、心より感謝申し上げます。

また次の展示へ向けて制作を続けてまいります。今後とも温かく見守っていただけましたら幸いです。



永利郁乃／鈴木義孝 二人展『ばけもの小路 猫又ごころ』

永利郁乃プロフィール
山梨県南アルプス市若草瓦会館館長として瓦を用いた作品や、仏画の制作活動も行っている。大学では主に仏画やデッサンを指導。

鈴木義孝プロフィール
仏像制作、修復を専門に活動。作家活動としては截金作品の制作を行う。

卒業生の 近況報告

身延山大学 国際日蓮学研究所 研究生
久恒 佳織

私は2021年4月に身延山大学に入学しました。大学では、博物館学芸員の資格取得を目指して勉強し、授業外の時間は工房で仏像修復の勉強をしていました。私の地元は千葉県なので身延には縁もゆかりもありませんでしたが、大学生活を通じて身延が大好きになったので卒業後も身延に残りたいと考えるようになりました。そんな時に、大学の職員さんから身延山ロープウェイへの就職を勧められ、7年間のアルバイトを経て就職が決まりました。

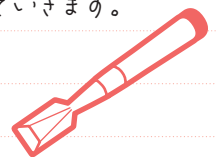


一日のスケジュール
8:20~17:00 ロープウェイ
18:00~21:00 工房



現在は、仕事が終わったあと工房で作業するという生活を続けています。

身延へ来てから、大学や工房を通じてたくさんの出会いや学びがありました。そのご縁をきっかけに、現在もロープウェイで日々たくさんの出会いと学びを得ています。今の環境への感謝を忘れず、これからも仕事と仏像修復の勉強に励んでいきます。



支援団体一覧 様々な形でご支援いただいております

(順不同・敬称略)

- ・日蓮宗総本山身延山久遠寺
- ・日蓮宗宗務院
- ・一般財団法人 太田慈光会
- ・身延山ロータス会
- ・南アルプス市商工会
- ・法華宗真門流総本山本隆寺
- ・日蓮宗諸寺院
- ・ラオス仏像修復サポーターズクラブ
- ・若草まちおこし協同組合

あとがき

「のみおと」第9号をご覧いただき、誠にありがとうございます。身延山大学仏像制作修復室ならびに本学ラオス事業をゼロから立ち上げ、その発展に多大な貢献をされた柳本伊左雄先生(本学名誉教授)が令和7年3月をもって定年退官され、教え子である鈴木義孝先生(本学特任講師)が大学関連における一切の後事を引き継がれました。また、永利郁乃先生(本学特任講師)は大学関連および「若草瓦会館」館長としてもその運営に力を尽くされています。また、仏像制作・修復に於いては制作集団「彫玄」(代表・仏師 依田 司)が総本山身延山久遠寺「日蓮聖人第七五〇遠忌報恩事業」仏殿納牌堂仏像群修復という大事業を受注するなど、多くの後進が着実に歩みを進め、世代交代を経て本学工房はますますの発展を遂げております。好評であった前号に引き続き、今号もB5判での発刊となりました。工房の多彩な活動を多くの皆様にご高覧いただき、今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。(池田)

印刷所

株式会社イーフォー

池田 健太郎
身延山大学事務局管理室長

久恒 佳織
身延山大学
国際日蓮学研究所研究生

依田 司
制作集団 彫玄(彫玄堂)代表

鈴木 木義孝
身延山大学
仏教学部特任講師

永利 郁乃
若草瓦会館館長
身延山大学
仏教学部特任講師

執筆者

鈴木 木義孝
身延山大学
仏教学部特任講師

編集

池田 健太郎
鈴木 義孝

〒409-2597

山梨県南巨摩郡身延町身延3567
電話 〇五五六-六二〇一〇七代

制作集団 彫玄

発行所

身延山大学仏教学部
国際日蓮学研究所
仏像制作修復室

身延山大学 仏像制作修復室 広報誌
工房便りののみおと 第九号
二〇二六年四月八日 発行



棲神の地、身延で体験しながら学べる本物の仏教芸術



学校法人 身延山学園

身延山大学

MINOBUSAN UNIVERSITY

〒409-2597

山梨県南巨摩郡身延町身延 3567

▼お気軽にお問合せください

入試事務室 0556-62-3700(直通)

E-mail nyuushi@min.ac.jp

HP <https://www.min.ac.jp/>



受験生特設ページ▲



身延山大学HP

<https://www.min.ac.jp/>

国際日蓮学研究所

<https://www.min.ac.jp/laboratory/index.html>

制作集団 彫玄

<https://chou-gen.com/>

彫玄堂 仏像制作・修復(身延山大学工房)Facebook

<https://www.facebook.com/cyougendou>

彫玄堂 X

<https://x.com/YodaTsukasa>

若草瓦会館

<https://r.goope.jp/kosyu-onikawara/>



工房 YouTube
チャンネル